

## 書面表決結果

協議案第 1 号	【資料 1】豊橋市都市交通計画中間見直しについて
<p>異議あり 0名 異議なし 18名 議決権を持つ委員の過半数の異議なしの回答により可決とする。</p>	
<p>【意見 1】 P2. 評価指標 1-1 の指標に関して、満足と感じる人の割合に「どちらともいえない」が含まれているが、これらを除いた割合で評価した方が良いのではないか。</p> <p>【回答】 今回の中間見直しでは、指標の評価方法について変更する予定はございませんが、次計画の策定では、ご指摘いただいた点も含め、評価指標について検討をいたします。</p> <p>【意見 2】 P5～P7. 後期・長期まで調査、検討のみとなっている事業については、内容や整備・導入・実施に至らない理由、課題等を整理してほしい。</p> <p>【回答】 現計画において、後期・長期まで調査、検討になっている事業は 6 つ（事業 11 「交通システムの高度化の検討」、事業 18 「適切な道路空間の確保に向けた沿線まちづくりの検討」、事業 19 「路面電車の上下分離方式など行政の適切な関与の検討」、事業 42 「都市間鉄道の利便性向上」、事業 43 「豊橋駅東エリアと西エリアを結ぶ通行環境の向上」、事業 45 「豊橋駅西口駅前地区の整備に向けた検討」）です。 これらの事業については、関係機関との調整や財源の確保などの課題があり、整備・導入に至っておらず、調査・検討に留まっております。</p>	

【意見3】

P9. アンケート①、②の項目は、高齢者のみを対象とした分析を追加し、中間見直しの方向性②の裏付けをして欲しい。

【回答】

ご指摘いただいた分析を行い、中間見直しの方向性の裏付けとします。

【意見4】

中間見直しで追加する内容と見直しの方向性の対応を最終的には整理してほしい。

【回答】

次回の協議会では、追加する内容と見直しの方向性の対応が分かるよう説明いたします。

【意見5】

「都市交通体系イメージ」について、豊橋駅を中心とした放射状のイメージ図では、市の周辺に住む住民にとって不便であり、せめて、放射状に伸びた線の先が公共交通機関と連携してほしい。考え始めているかもしれないが、市電、渥美線、JR、名鉄等の駅と連携した環状線が必要であるとする。

【回答】

環状のネットワークの構築については課題の1つとして認識しております。ただし、現状では、公共交通の需要は朝夕の通勤通学や昼間時間帯の中心市街地への買い物など豊橋駅を中心とした利用が主となっており、一定の需要がなければ公共交通ネットワークとして維持していくことは困難であると考えております。今後、具体的な市民ニーズを把握しつつ、交通事業者と連携を図りながら交通体系の検討を進めてまいります。

【意見6】

人にやさしく移動しやすい交通手段としての自転車について、自転車が、日常に移動手段となっているのは、やはりまちなかであると思われる。駅前に自転車基地を考えられていると思うが、この考えを観光客だけでなく地域の自転車利用、街づくりと交通ネットワーク、すべての視線から見てみる必要があり、9つの地域すべて

に自転車基地を作る必要があると考える。例えば、のんほいパークや、道の駅、公園、大型ショッピングセンターといった施設。自転車基地を公共交通と連携させ、車、自転車、公共交通機関、そしてウォークアブルも組み入れたネットワークとし、点から線へ変換する必要があると考える。

【回答】

本計画では、主要な駅や電停などに駐輪場を整備してC&Rを進めております。今後もこれらの施策を進めるため、関係機関と調整を図りながら自転車活用を推進します。

【意見7】

高齢者支援について、高齢者を支援するということはお金だけでは無理である。どのように、公共交通機関を利用するのかをここに示すことが必要であり、そのために各自治体の力を借りないと実現しないと思う。コミュニティバスの運行にも自治体の力を発揮していると聞いた。モデル地域を作りみんなで考えていくことはできないか。

【回答】

公共交通の乗り方が分からない高齢者に対する取組として、昨年度は、レイクタウンの地域の人に対して出前講座を実施し、マイ時刻表の作成を行いました。これにより、参加者一人一人の生活に応じた公共交通の利用の仕方を伝えました。今後は、こういった取組みの範囲を広げるなど、高齢者の移動を支援するような取組みを進めていきたいと考えております。

【意見8】

バスの運転士不足について、バスのサービス水準の拡充に運転士さん不足が挙げられていた。現状で難しいなら、働き方改革という視点から考えられることはないか。働くことのできる人を増やすために、例えば、時間を限定する、バスを小型化するなど女性やリタイヤ者を含め、門戸を開くすべはないのか。

【回答】

現在、豊鉄バスでは、女性専用の休憩室を設置するなど女性運転士の働きやすい環境づくり、60歳以上の経験者の採用を行うなど門戸を開いています。また、脳ドックの対象年齢の引き上げにより、70歳超まで雇用を維持するなど運転士の確保

に努めております。また、本市では、路線バス等の運転士を希望する定住外国人に向けて就業を支援しています。バスの運転士不足は喫緊の課題であり、いただいた意見を参考に今後も運転士の確保に努めます。

【意見9】

中間見直しの方向性⑥に関連して、公共交通利用者のうち、生徒・学生(通学者)は大きなウェイトを占めていると考えられるが、新型コロナウイルス感染症の状況によって、教育機関でのオンライン化が進んでいる。そうした教育機関の状況も共有しながら、見直しを進めていただければと思った。

【回答】

現在、教育機関の通学状況やオンライン化など状況の把握に努めておりますが、通学による公共交通利用は大きく減少しています。市では、これらの減少した利用者の回復に向け、公共交通を安心して利用するための4カ条を定め、その周知に取り組んでいます。今後は教育機関の関係者と状況の共有をしつつ、計画を推進します。

【意見10】

中間見直しにあたり、「行政関与の見直しを図る」とありますが、公共交通に対する行政負担額についても検討いただけるとよいと思う。

【回答】

ご指摘いただいた内容について検討させていただき、見直しを進めてまいります。